

経営比較分析表（平成29年度決算）

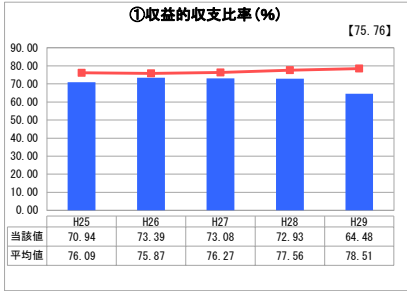
大分県 杵築市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	12.01	3,080	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,871	280.08	106.65
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,576	25.07	142.64

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

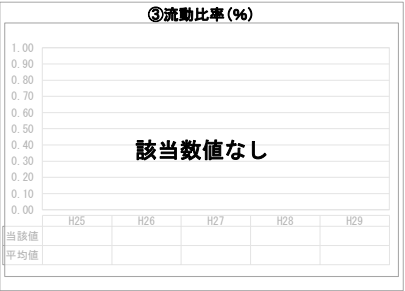
1. 経営の健全性・効率性



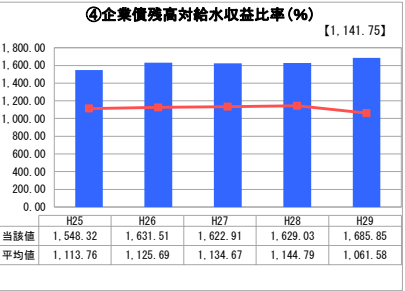
「単年度の収支」



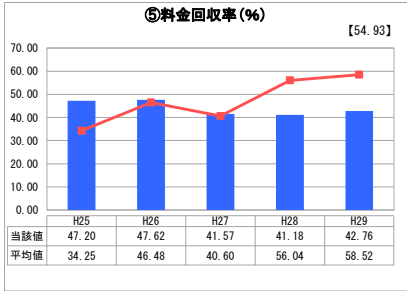
「累積欠損」



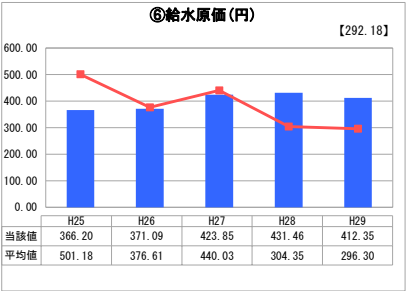
「支払能力」



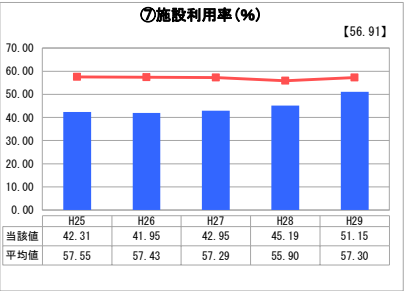
「債務残高」



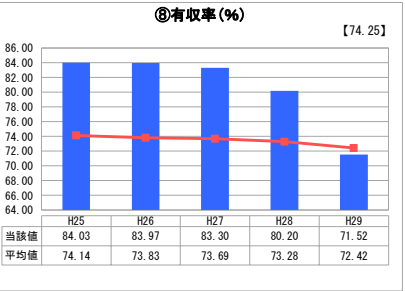
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

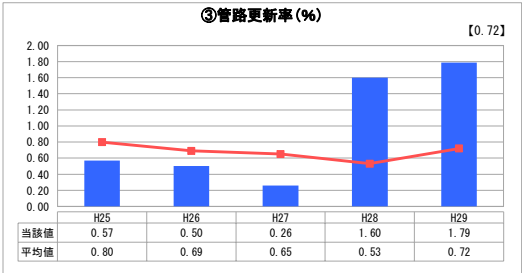
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①『経常収支比率』…経常費用が経常収益でどの程度補われているかを示す指標。全国平均、類似団体平均値との比較では下回っています。H29も地方債償還金の増加により、依然として繰入金に頼った運営となっています。

④『企業債残高対給水収益比率』…給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。H24年度からH29年度にかけ実施した事業の起債残高が増加。これまで事業に伴う給水収益の伸びにより比率が安定していたが、H29は起債残高が上回り若干の増加傾向となっています。

⑤『料金回収率』…給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標。4割程度であり、給水収益だけでは運営ができません。市からの繰入金に頼った運営となっています。

⑥『給水原価』…有収水量1m³あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標。前年並の比率で推移しています。

⑦『施設利用率』…配水能力に対する配水量の割合で、施設の利用状況を判断する指標。改善傾向にあるが全国平均を下回っており、効率性は低いといえます。しかし、配水域が山間地であるので地形や点在した集落の形成状況を鑑みればやむを得ない状況です。

⑧『有収率』…施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標。類似団体平均値に比べて高い水準で推移していましたが、漏水の発生により効率性が大きく低下しています。今後は漏水等の対策を強化する必要があります。

2. 老朽化の状況について

③『管路更新率』…当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標。平成29年度の増加は、未普及地域解消事業に伴う更新によるものです。今後も、計画的な管の更新を進めなければなりません。

全体総括

簡易水道は、山間部を中心とした地域を給水区域としており、配水管の布設は自ずと高コストにならざるをえません。給水人口は過疎化により大きく減少しているため、市からの繰入金に頼った経営となっています。しかし、公共の福祉のもと生活基盤の確保は市の責任であり、未普及地域の解消を図り、老朽化した施設の更新を進めるとともに、不用品施設の廃止や料金の見直し等を含め、適切な企業経営の探究を図りながら、バランスの取れた経営に向け取り組みを行っていきます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。